国際果実野菜年2021

JAで初サポーターに

ＪＡみいは６月８日、農水省から全国のＪＡで初となる「国際果実野菜年2021」オフィシャルサポーターに認定されました。

国連は今年を「国際果実野菜年」と定め、バランスの良い健康的な食事や食品ロス削減の重要性を訴えています。オフィシャルサポーターは、この活動を広めるために農水省が設けた制度です。

小松菜やサニーレタスなど70品目以上、約54億円の野菜販売高をもつＪＡみいでは、果実や野菜の消費を通じて健康的な生活を促進していきます。果実・野菜を食べる重要性を伝えるリーフレットやレシピ作り、ロゴ付きの農産物販売も行い、ＰＲする予定です。また、ホームページやFacebook、広報誌に国内生産の実態などを掲載し、幅広く周知します。

平田浩則組合長は「管内が多種多様な野菜産地である強みを生かし、健康づくりを推進する。役職員一丸で取り組み、積極的に情報を発信していく」と語りました。

▲ 認定証を受け取る平田浩則組合長（左）と小野義憲専務（右）

応援します

国際果実野菜年 2021

▲「国際果実野菜年2021」ロゴマーク

量販店でトウモロコシ販促

甘さと高品質をPR

ＪＡみいは６月22日、ゆめタウン博多店と久留米店の２店舗でトウモロコシの販促を行いました。最盛期に合わせ、トウモロコシの魅力をＰＲすることが狙いです。管内で収穫されたトウモロコシ1800本を販売しました。園芸課の担当職員は、産直の新鮮さや豊潤な甘さを呼び掛け、見分け方やおすすめの食べ方も紹介しました。来店者は、品質の良さを確かめながら旬の味覚を買い求められました。朝から多くの来店者が訪れ、大好評でした。

▲ トウモロコシの見分け方を説明するＪＡ担当職員（左）

ズッキーニ出荷査定会

適期収穫と管理を

ＪＡみいズッキーニ研究会は６月３日、園芸流通センターで出荷査定会を開催しました。会員やＪＡ担当職員９名が参加し、各会員が出荷したズッキーニ「モスグリーン」を見ながら、規格や品質を確認しました。ＪＡ担当職員が出荷規格を説明し、収穫遅れは果実が大きくなり果皮も固くなるため、適期収穫するよう呼び掛けました。また今年は梅雨入りが早く、雨による根の傷みや病害虫の発生が心配されるため、徹底した管理を促しました。

▲ 出荷規格を説明するＪＡ担当職員（右）